

最上小国川清流未来ニュース

平成30年9月21日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第12号

第1回最上小国川鮎釣り甲子園 開催！



8月5日(日)に舟形町の最上小国川一の関大橋付近で最上小国川鮎釣り甲子園大会を初めて開催しました。この大会は、最上小国川の豊かな自然の魅力と鮎釣りの文化を多くの高校生に体感し知ってもらうこと、そして、最上地域の高校生にはふるさとへの愛着を持ってもらうことを目的として最上小国川清流未来振興機構(事務局:山形県、舟形町、最上町、小国川漁協ほか)が今年初めて開催したものです。最上地域を中心とした県内全域、宮城県、岩手県の県外から高校生総勢58名が参加しました。高校生に対し、地元の釣り愛好家が指導しながら制限時間内に鮎を何匹釣り上げられるかを競い合いました。



開催に先立ち、山形県最上総合支庁の須藤勇司支庁長、最上町の高橋重美町長、小国川漁業協同組合の高橋光明代表理事組合長、伊藤重成山形県議会議員からあいさつを頂戴しました。次に加茂水産高校の山科瀬那さんが選手宣誓を行い、「最後まで鮎釣りを楽しむことを誓います」と力強く述べました。

大会当日の最上小国川は少雨の影響で水位が低い状態でしたが、高校生は次々と鮎を釣りあげていました。

競技終了後、検量を行い入賞者が決定しました。

- ★第1位☆ 菅井 祐樹
宮城県 東北学院榴ヶ岡高等学校 17匹
- ★第2位☆ 荒木 美瑞樹 新庄東高等学校 12匹
- ★第3位☆ 安部 文翔 日大山形高等学校 11匹

昼食は最上小国川流域の味覚として鮎の塩焼き、山形名物芋煮や舟形町の野菜などを参加者全員でおいしくいただきました。

昼食をとりながら、高校生は釣り指導を行った大人たちと鮎釣りや地元のことについて語り合いました。

その後、帽子やT-シャツなど釣り具メーカーからの協賛の品を景品に、お楽しみ抽選会・じゃんけん大会を行いました。



参加した高校生からは

「指導の先生が優しく、楽しく会話しながら鮎釣りができた。」「鮎釣りを通して地元愛を感じることができた。」「初めて鮎釣りをしたが、とても楽しかった。またやってみたい。」といった声がありました。

雨でびしょ濡れになりながらも、大人との対話を通して鮎釣り文化を学ぶことや、鮎釣りの楽しさを感じることができた生徒が多く見られ有意義な時間となりました。



～第3回最上小国川写真コンテスト開催中～

「未来に伝えたい、私たちの最上小国川」をテーマに写真コンテストを開催しています。

最上小国川の魅力（最上小国川の風景、体験や思い出など）を撮影した作品を募集しています。

【応募締切】

平成30年11月30日（金）まで（当日消印有効）

【入賞】

賞金のほか、「最上小国川流域の特産物」をプレゼント

※詳しくは、下記お問い合わせ先のURLをご確認ください。

【お問い合わせ先】

最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：0233-29-1240

※ 最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください。（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）